決算委員会４日目

-------------------------

* 学校施設整備基金積立金について
* 市の教育の考え方について
* アクティブラーニングについて
* 軽い体罰を行った教員１名、暴言をはいた教員２名の認識について
* 教師との関係で不登校になった児童への認識について
* オリンピック関連の予算について
* 子どもたちのSOSをキャッチする場としての学校について
* 人権教育、情報モラル教育について
* 総括質疑
* 賛成討論

--------------------------

【笹岡委員】　　お願いいたします。教育費に関しては、全体的にしかるべきところにきちんと出しているなというような印象がありまして、そこはとても評価すべきところだと思っております。

　１点お伺いします。

事項別明細書の265ページ、学校施設整備基金積立金10億円について、今後の積み立てのペースですとか、これは、学校といってもたくさんありますが、どのように使われていく予定なのかといったところを教えていただきたいと思います。

　また、１つはちょっと大きなことになるのですけれども、武蔵野市の教育の考え方として、例えば大野田小学校がつくられたときのように、今後も、とてもお金を使ったりしてシンボル的な学校をつくっていくことがあるのかどうか、そういったお考えなのかどうかも伺いたいと思います。

私は第一小学校出身なのですけれども、当時さまざまなことを考え、大野田小学校に対してはいろいろなこともありましたが、義務教育学校の設立の可否についても検討されている中、どのような教育の考え方をされているのかなと思い、伺っております。

　もう一つは、今全国的にアクティブラーニングというのがとても注目されているところではありますが、武蔵野も少しずつ導入がされていると聞いておりますけれども、具体的にどのようなふうにやっているのか伺いたいと思います。

【大杉教育企画課長】　　まず学校施設整備基金についてのお尋ねでございます。27年度は10億円を積み増しをいたしました。

大体これはルール的に当初予算では利子収入の見込みだけを予算で組みまして、もともとその年度を締めて繰越金の中からそれぞれ基金に、これは財政的な見地で、特に教育がどうこうということではなく、全市的に今後の都市基盤施設の整備ですとか施設の今後の建設予定等を長期計画等で考えを見据えて適切に配分するということでございまして、26年度の８億円から27年度10億円に積み増しがふえましたのは、その繰越金の額のところと、あと今後の学校施設の更新というものにかなり膨大な経費がかかるというところで積み増しをしていただけたというふうに理解しております。

【竹内教育部長】　　今後、例えば千川小とか大野田小のような特色のある学校をつくるのかということですが、平成27年度に策定した学校施設整備基本方針の中では、これはそれぞれの具体的な一つ一つの学校の改築に取り組んでいく中では、いろいろと特色とかあるいは地形とかそういったものを踏まえる必要はあると思うのですが、基本的には標準仕様という形で、標準的な一定のスタンダードをつくって、それにのっとって考えていくべきだと。

これから今後20年間かけて各学校の改築に臨んでいくわけですので、あるときは出っ込んであるときは引っ込んでというわけにいきませんので、基本的にはそういう標準仕様を考えて、それをもとにしていくという予定でおります。

【指田指導課長】　　アクティブラーニングについての御質問ですが、これは次の学習指導要領の中で、主体的、対話的で深い学びという形で示されております。

もう既にそれぞれの学校の中では教科における言語活動でありますとか、それからグループ学習でありますとか、課題学習でありますとか、それから総合的な学習の時間における探求学習でありますとか、さまざまな形で行っております。

何か特化して特別なことをやるというよりも、日常的な授業の中でこのアクティブラーニングの考え方を活用していきながら、子どもたちの思考力を高めていくというところで今進んでおります。

【笹岡委員】　　基金の件、了解いたしました。26年度より２億円積立金がふえていることも評価すべきことだと思っております。

　今後特別な学校をつくるというよりも、20年間かけて標準仕様ということで、私も公教育としてそのほうがいいと思っております。どこの地域に住んでいても同じような教育が受けられる、それは公教育として基本だと思いますので、そのようにしていっていただきたいと思います。

ここに格差とかが生まれないようにしていただきたいと要望いたします。アクティブラーニングの件も了解しました。

　次に教師の質の向上について伺います。

長い題名の武蔵野市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書の19ページをお願いいたします。

また、武蔵野市の教育相談の42ページもお持ちでしたらお願いいたします。こちらに、平成27年度は本市で体罰を行った教員はゼロ名、不適切な指導、軽微の有形力、軽い体罰ですか、を行った教員は１名、暴言等を生徒に行った教員は２名と書いてありますが、こちらの個別事情があると思いますので、どういったものなのか、できる範囲で伺いたいと思います。

またこれの、２名であったので、「本市では教育の専門職としての教員の自覚は高いと考える」とまとめた、このまとめに対して、私はこれを読んだ後にそうやってまとめるのかなとちょっと疑問に思ったのですけれども、そちらの説明もお願いいたします。

　またあわせて、教育相談において42ページには、不登校のきっかけとして、教師との関係をめぐる問題というものに悩んで不登校になったという生徒も出ているという結果が出ておりますが、こちらに対しての対応等も伺いたいと思います。

【指田指導課長】　　まず、体罰のことでございますが、不適切な指導、暴言ですが、これは例えば子どもの手を強く引っ張ったりとか、それから子どもの体の何か部位にかかわるようなことを言ってしまったということで挙げてございます。

　それと、この、「本市では教育の専門職としての教員の自覚が高いと考える」ということでございますが、これは東京都のいろいろなデータと比べた場合、武蔵野市の場合には、まあ３名おりましたけれども、非常に全体としては専門職としての意識が高いという、そういう比較の中でここのところは書かせていただきました。

　それから、教師との関係をめぐる問題につきましては、これは例えば先ほどの教員の言った一言によってちょっと関係が悪くなったりとか、そういうこともございました。

その中で、実際にその教師と子どもの中で話し合いを持って、子どもそれからその保護者に対して理解をしていただくような形で、学校のほうではこれまで取り組んでいるところでございます。

【笹岡委員】　　わかりました。こういったこと、子ども対子どもでいじめというのはどういうときに起こるかというのは、本当にいろいろな場所で、その子どもの素質に関係なく起こってしまうことだと思いますが、

子ども対大人、まして教師に関しては、こういったことがなるべく起こらないように、そして起こった場合はもう少し問題意識を持って、まず軽微なこととか少しのことというような意識ではなく、きちんとそういった意識で、市、教育側は対応すべきだと思いますが、ちょっと今の感じですと、そんなに全体的には大丈夫といったような感じがいたしましたが、いかがでしょうか。

　ですので、この報告書も２名、軽微な体罰が１名、暴言が２名であったので、「本市では教育の専門職としての教員の自覚は高いと考える」といった、ここの一文を一緒にまとめて、でも高いと考えますというふうにまとめるのも、せめて文章を分けるとか、何か私は、自分の経験もありますので、教師と子どもたちの絶対的な力関係の中で、こういったことが起こったならば、教育委員会、指導課はもう少し生徒の立場に立って問題意識を持って取り組んでいくべきだと考えておりますが、いかがでしょうか。

　もう１点は、東京オリンピック・パラリンピック等国際大会関連事業について伺います。付属資料の28ページですが、予算ゼロで決算361万円とありますが、これの補助率、入ってきたお金と市の持ち出しの関係と、今後の方向性について伺いたいと思います。ここで切ります。

【指田指導課長】　　では、前半のほうでございますが、ありがとうございます。委員おっしゃるとおり、これは重いも軽いもありません。

その行為自体がやはり教員としてはよくないということでこちらは受けとめております。実際に毎回行っている定例校長会でありますとか副校長会、それから各主任会等でも、この体罰防止に向けた指導は毎回行っております。

また、各学校では服務事故防止に向けた研修ということで、これも学校ごとに教員に対して意識啓発を行っております。

また、子どもに対しても、おっしゃるとおりでございます。

教育委員会といたしましても、学校でこのようなことがあった場合には、そこの学校の校長でありますとか教諭を呼んで実際に確認して、今後二度とこのようなことがないこと、また、子どもに対する謝罪等もしっかり行うよう行っているところでございます。

【齋藤オリンピック・パラリンピック担当課長】　　オリンピック・パラリンピック等の取り組みでございますが、補助率は東京都の２分の１でございます。

昨年度行いました卓球とカヌーのイベントにつきまして２分の１の補助をいただいておりまして、補助金としての歳入額は171万4,000円が歳入となってございます。

　今後の方向性でございますが、27年度に取組み方針をつくりました。計画の改定もいたしまして、その全体の中で進めていきたいというふうに考えておりますし、昨年度行った卓球とカヌーのイベント、こういったものについては、わかりやすい標語をつけようということで、「Ｓｐｏｒｔｓ　ｆｏｒ　Ａｌｌ」というタイトルをつけて今年度展開をしております。子どもたちにも感動体験を与えていく、そんなイベントにしていければと考えております。

【笹岡委員】　　補助率が２分の１ということで、過去の五輪のデータを見ますと、夏季五輪後に景気が悪くなったのはソウル、バルセロナ、シドニー、アテネ、北京ということで、景気が悪化しなかったのがアトランタだけだと言われております。

そういったことを考えますと、今回スポーツ事業、「Ｓｐｏｒｔｓ　ｆｏｒ　Ａｌｌ」ということでさまざまなことに取り組んでいらっしゃると思いますが、これから補助金等はまた難しくなってくるのかなということも考えると、全体的に今後どうやってやっていくのかなと。終わった後等はどうしていくつもりなのかというのを伺いたいと思います。

　もう１点は、子どもの貧困にあわせて、子どものＳＯＳをキャッチするというのは、多くの場合、学校となると思っております。そういったプラットフォームの役割もかなり多く果たしていると思いますけれども、１つのお話をさせていただきますと、フードバンク子ども支援プロジェクトというものがあります。

１つの学校が校長のリーダーシップで連携を実現したら、校長が想定していた６倍も子どもたちの親からの連携の申請があったと。

フードバンクというのは、食品ロスのものを回してもらうという仕組みなのですけれども、そういったことからもやはり私たちが見えている貧困というのも、かなり本当は見えていないのかななんて思いながら見ておりましたが、武蔵野市全体としては、今、貧困が目に見えてわかっているところはとても少ないですけれども、今後学校の役割として、またさまざまなものとの連携、この前私は衛生費で歯のことを言いましたが、そういったことも含め、どういったことを考えていらっしゃるのか伺いたいと思います。

【齋藤オリンピック・パラリンピック担当課長】　　まず、景気の問題につきましては、非常に国レベルのことも大きいかと思いますので、武蔵野市ではどうしていくかというところでお答えしたいというふうに考えております。

まず、現段階では東京都なりは補助については今後もふやしていきたいというようなお話をいただいておりますので、これにつきましては、しっかりと有効に活用する方向で展開していきたいというふうに思っております。

また、組織委員会がこのたび10月から参画プログラムというのを始めるというふうに聞いております。これはお金ではなくてマークを付与していく、市の取り組みなどにマークを付与していくことで機運醸成に努めていくということになっております。ですので、このあたりは従来行っているイベントなんかにもマークをつけていくということで、お金を新たにふやすのではなく機運醸成を図っていきたいというふうに思っております。

　では武蔵野市で2020年以降どうするのかということになるかと思うのですけれども、我々のほうで一過性のイベントだけで終わらないというのを意識して取組み方針と行動計画をつくったというふうに思っております。

行動計画の中には、既に各分野の計画にあることを着実に進めていくというような記載もございますので、この2020年に向けてオリンピック・パラリンピックという言葉、それから2020年という締め切り効果、ここで大きな機運が高まったところで着実に各分野の取り組みを進めていければ、2020年以降にも残るものになっていくのではないかというふうに思っております。まだまだ国や都、組織委員会がこれから動きを加速していくという段階でございますので、今の時点で明確にこれをここまでというところはなかなかお答えできないのですけれども、そのような2020年以降も意識した取り組みとして行動計画まで定めておりますので、御注目いただければというふうに思っております。

【宮崎教育長】　　今、フードバンクの例を引かれまして、学校が子どもたちのＳＯＳをキャッチする場であると、そうした貧困の対策のプラットフォームとなるべきであるというお考えをいただいたところでございますけれども、私もまさにそのとおりだというふうに考えておりまして、市でも、今ちょっと伺いますと、フードバンクの活用といったものが始まっているというようなことを聞いているのですけれども、実はきょう午前中からもいろいろ御質問ある中で、例えばこれからの学校がどうあるべきかといったときに、私はもうちょっと何か加えてもということを申し上げたのは、学校というのは教育機能だけだというふうに先生方も、多分市民の方も皆さんそういうふうに想像されていると、思い込みというと失礼ですけれども、それは既に先入観として確立されていると思います。

しかし、本当にこれから15歳までのあの年齢の子どもたちの一番大切な成長の時期、人間としての基盤になる時期を支援するところの、主として１日のうちの多くの時間を過ごす学校が、子どもたちに対して非常に積極的な役割を果たさなければならないとなると、それで私は、現在確立されている小学校、中学校といういわゆる教育機能だけのああいう期待だけでいいのかというのは、やはりこれからは少し変化するのではないかと思っています。

それは教育内容の問題もありますけれども、それとはまた別に、もっと福祉的機能といいますか、現在学童クラブやあそべえが全ての学校について担っているようなところですが、あれはどちらかというとまだ付加的な、後から加えたものですから、どうしても付加的なものになっているわけですが、ああいうものはもう少しこれからは正面から、新しいこれからの改築という学校教育の刷新期に入るときに、そういう見方も必要ではないかと感じていて、実は市民の意見交換なんかでそういう反応も期待したところだったのです。

もっとプラスするものを、さらにアイデアが欲しいなと思ったところだったのですが。やはり、特に私が公立学校にこだわるのは、公立学校は、全ての子どもたちを基本的には対象にしますので、御家庭の経済状況にかかわらずですね。

こういったところが実はその役を果たせる最後のとりで、セーフティネットみたいなものなのです。

ですから、そういったところでこれからの学校を考えていくときに、教育内容も大事だし、教育資本ももちろん追求してまいりますけれども、と同時に、そうした子どもたちをケアする、サポートするシステムとしてもどのように機能させることができるか、そういったものを市民の皆さんや議員の皆さんとも一緒に考えていきたい、これからの学校というのは一体どうなるのかというのを考えていきたいというのが率直な思いでございます。

今おっしゃったようなそうした機能が今後学校教育の中で役割を増していくということは、私はあって当然だと思いますし、そうあってほしいと思っているところでございます。

【笹岡委員】　　午前中のところでおっしゃって、その続きを聞いてみたかったなというのがありましたので、すばらしいお話を聞けてよかったなと思います。

これから本当に学校の機能というのが結構大変大きな意味を増してきていて、個別の力、個人の力が強くなってくる中で、やはりそういった中の公教育というものがさまざまな役割を果たさなければならないということで、すごく大切だけれども大変な時期だなと思っております。

　加えて１つ要望がありますのは、一般質問でも申し上げましたとおり、市民性を高める教育をしていくということで、市民性というもの、シチズンシップに関しては本当に重要なことだと思っておりますし、そういった中、やはりそれの大もとの大もとの大もとになるのは、いじめや全ての話ですね、情報モラル教育なんかも今言われていますけれども、全ての大もとはやはり人権教育だと思っておりますので、情報モラル教育というのは私たち大人も学ばなければいけないというふうに最近は感じております。

不備が少しあったらとことんたたいていいみたいな感じの風潮に対してもちょっと私は疑問を覚えておりますので、そういった何か、やはり人権ですね、ともに生きるには自分の権利も認めるけれども相手の権利も認めるといったところを、やはり教育、公教育のところで市民性を高める教育というところも、アクティブラーニングも全て含めて、そういった人権教育というところをやはり礎にしてやっていっていただきたいと思いますが、お考え等あれば伺いたいと思います。私は以上です。

【指田指導課長】　　ありがとうございます。委員おっしゃったとおり、やはり全ての教育の根幹は人権教育だと考えております。

武蔵野市教育委員会の教育目標でありますとか基本方針も、一番最初に人権教育の推進ということで掲げております。この人権教育を推進することによって、先ほど申し上げたようなアクティブラーニングでありますとかさまざまな教育活動も充実していく、そういう考えでおります

---------（総括質疑）-------------

【笹岡委員】　　お疲れさまでした。１点だけ伺いたいと思います。コミュニティのあり方についてはほかの方もふれると思いますが、今回の決算委員会で割と話題になったことだと思っております。

　私は今回、最終日に総合的に感じますのは、初日に申し上げました子どもというものを意識して真ん中に置かないと、おざなりではないですけれども、ちょっと薄くなってしまうといったことをお話しさせていただきました。

　４日間の審査を通じて、バリアフリーマップの件でも、バリアフリーといえばユニバーサルデザインとほぼ同じで、全ての人がバリアフリーという概念に入ってくるはずでありまして、バリアフリー構想の中にもベビーカーとか、子ども連れというのは入ってくるのですけれども、イラストがなかった。

そして、災害時の避難方法においても、乳幼児に対する対策というのがいま一歩であること。

液体ミルクの検討や妊婦さんの対応も含め、周知もまだまだであること。

一方、高齢の方に関しては、すごく心配ですので、細々と対策はされているのですが、もし災害が起こったときに小さな赤ちゃんと保育園に通う子どもが２人でもいたとすると、大変なことになるなと。

想像してわかる部分でありますので、そういったところの対策もいま一歩であるなと。それは私の自覚においてもですけれども。

もう一方は、子どもの貧困対策というのが全国的に話題になっておりますが、やはりそこも見えづらいということで、一般的なものに押しとどまっている部分があると思います。

　そういったことで、相当意識をして子どもを真ん中、子どもは本当に大事だと。それはコミュニティづくり、プラスこの市を運営する側の対応、立ち位置、そこに気をつけないと、おざなりになるというのは言い過ぎかもしれませんが、少し対策等も薄くなってきてしまうのかなと今回の審査でも感じました。

まだまだ子どもや子育て世代に対して、保育所が建たなかったりとか、反対運動が起こったりとか、そういったことは武蔵野だけでなく全国的に、またバスに乗るにもベビーカーは舌打ちをされたりですとか、そういったことも社会全体がまだまだ寛容ではないなと思っております。

　重ねて申し上げますが、市を運営する側としてもう少し子どもたち、赤ちゃん、子ども連れというのを大事にしているという姿勢を全面的に打ち出さない限りは、先ほど指摘させていただいたようなことが出てきてしまうのかなと思いますが、この点はいかがでしょうか。

【邑上市長】　　おっしゃるとおりでありまして、未来を担う子どもたちというのは我々の宝物でございますから、これは各家庭だけではなくて、地域を挙げて子育て支援に力を重ねていかなければいけないと思っています。

　御指摘のとおり、まだまだ市としても力不足の面、多々あろうかと思っておりますけれども、まずは保育園の待機児解消を初めとして課題解決をしながら、より一層子育てのしやすいまち、これは単にお住まいのファミリー層だけでなくて、ここに来ていただける方も子どもたちにやさしいまちだなと思っていただけるような、まさに先ほどおっしゃられたようなバスの中でも温かい見守りをしていただけるような、まちぐるみでそういう温かい目が子どもたちにつながるような、こんな視点でまちづくりをしていかなければいけないと思っています。

　まだ事業としては小さいのですが、まちぐるみ子育て応援事業というのも実はそういう趣旨で提案をして、地元の民間発意でのさまざまな事業をふやしていきたいという思いでございましたが、それがうまく大きな規模で展開し切れてないのかなと思っておりますが、予算はかからずとも、例えばレンタルベビーカーもこのたび駐輪場に設けることが予定できましたので、できるところから徐々に拡大していくことによって、まちじゅうが子育てにやさしい、さまざまな支援が散りばめられるようなまちづくりをぜひ進めていきたいと思っています。

【笹岡委員】　　御理解していただいて本当にありがたい限りですけれども、自然の流れに任せてというか、世の中の流れに任せていたらいけないと私は思います。

よく言われます自己責任論とか、そういったことも社会的弱者に向けられることが多いです。それは子どもだけでなく、障害がある方であったり、高齢の方であったり、そういった方に向いてしまう。

　私は毎回、心を痛めているものなのでありますが、そういったことも必要なのは行政側の強い意志とプラス市民自治、市民がしっかり横につながって、コミュニティが課題を解決していく。

その２つが強くなければ、この社会はなかなか厳しいものでありますので、温かいものになっていかないのではないかなと。自己責任論に追いやられてしまう部分があると思いますので、ぜひこちらは市民自治と重ね、運営側も強く意識していただきたいと要望いたします。

【笹岡委員】　　会派空を代表しまして、平成27年度一般会計及び４特別会計、１事業会計の決算に賛成の立場で討論させていただきます。

　今年度も財政力指数及び経常収支比率、また基金増や市債減など邑上市政らしい安定した健全な市政運営がされてきたことと評価いたします。

また、歳入歳出とも過去最大でありながらも市税の伸びも堅調であり、今のところ問題はないといった安定性が見られました。

しかしながら、来るべき2025年問題も見据え、コミュニティやその他介護など、社会を支える仕組みづくりも発信していくべき時期が来ていると感じております。

今年度は調整計画策定もされ、長期的な見通しも新たにされたところであります。全体的に一人一人を大切にする予算、一人一人の生活を支える決算といったところが見受けられました。

　詳細は本会議にて申しますが、１点だけ、コミュニティのあり方については今後より検討していくべきことだと思いました。

横つながりのコミュニティとは何か、地域子育てとは一体何か。

武蔵野は歴史的に市民自治の歴史がありますけれども、これの今後の形といったものは一体何なのだろうか。安心して産み育てられる社会、また希望が持てる社会に向けて一歩進んだソーシャルインクルージョンという視点で、これから武蔵野の市政をつくっていただきたいと要望いたします。

また、こういった指摘を次の予算に反映させていただきたいと要望いたします。

　以上で賛成の討論とさせていただきます。